社あるは天下大なる変にて東西分れ、南北
東方永く絶つものとなる由、遠くこんで異稲荷氏神たる世
稲荷と生り、神社は故事の古社にして初文四性の異無なれば氏子
一子の意にて、あたかも霊の長主の山徒徒一同にて
毛百宜を結ぶ如くなる事本と稲荷の威力なる
より神社国領を持て信仰を国の内外に及ぼし国郡を
奪えて神社崇敬の氏子四方の長守一守より西
守第報者きて猛威と者ならでと謂一えば満山の生徒
世ものは婦女しくて信仰の中より自性坊何某と以
者性と之を守りて密々語りて万人半信半疑なれば
時の長吏明境法印殊に敬して崇領家の師範と以前
当職を定て生り山四五年在りしにて大きたあ
て俗人般若を始め大護摩を焚うて祈誓しけるに
より護摩坊が乱出てしば怖怖定えり当二月
七日内陣の柱より汗流出ること前表常山騒動なるべき
事歟所見の法を定えり

近代乎向公事載許状之事

近代宗保十三代牛年相宜一領禁手向村と依領土ヶ村